

日本労働者協同組合連合会 25周年記念企画 国際シンポジウム

尊厳ある労働の社会的実現へ

2004.9.18 国連大学ウ・タントホール

主催 日本労働者協同組合連合会

共催 協同総合研究所・協同労働法制化市民会議

特別協力 国際労働機関(ILO)駐日事務所



日本労働者協同組合連合会は創立25周年記念国際シンポジウムを9月18日、東京・国連大学ウ・タントホールで開き、268人が参加しました。シンポジウムでは連合の笹森清会長が連帯のあいさつ。ILO（国際労働機関）駐日代表の堀内光子さんをコーディネーターに、ILO協同組合部長のユルゲン・シュベットマン氏、イギリス協同組合連合会全国戦略コーディネーターのヘレン・シーモア氏が報告。日本側からは、連合の中嶋滋総合国際部長、東京商工会議所の川村耕太郎常任参与、日本労協連菅野正純理事長がパネラーとなり、日本のワークス・コープの四半世紀の歩みを踏まえて、「ディーセント・ワーク」「地域再生・就労創出」「協同労働法制化」の3つのテーマを深め、この運動をさらに広範な働く人々・市民の取り組みに飛躍させることを決意しました。

ごあいさつ



笹森 清（日本労働組合総連合会長）

出たら、日本全国中本当にメジャーになりまして、この間、孫の手をひいて歩いていましたら「あっ、プロ野球の応援団のおじさんだ」と、子どもにいわれました。

なぜこんなことから入ったかという、彼らが働く立場、労働者であるかどうか、というのが、プロ野球機構の経営陣にとっては最大の問題だったんです。彼らは、今からちょうど20年前の1985年に東京都の労働委員会に申請を出して承認された、東京都に所属をするれっきとした法人格をもっている労働組合なんです。ただし、皆さんやわれわれと違うのは、労働基準法上の労働者の適用を受けていないということ。だから労働組合法上は労働者だけれども、労働基準法上は雇用保険も厚生年金も払っていない、個人事業主なんだ。そこを捕まえて、経営側は「彼たちは労働者じゃない。だから話し合いをするような団体交渉の場を持たなくていいんだ」と突っぱねていたわけです。

2ヶ月ずっと拒否をし続けて、やっと1回目の会合がもたれた。話し合いが決裂をして、2回目が昨日。それも予定時間を大幅に延長して、残念ながら決裂、スト決行ということになり、今日、明日の試合が潰れるという状況になりました。

私自身は「ストライキを目的にしてはいけない。本当にとことん話し合って、解決策を見いだせ。日本の文化であり、子どもたちの夢であり、社会に根付いたプロ野球がこ

絶対に行かなければ

連合として連帯のあいさつならびに労働組合団体としての発表を、と要請いただきました。私は何回か、労協連でごあいさつさせていただいておりますが、今回、ご丁寧な要請をいただきまして「これは絶対に行かなければいかな」という思いをいたしました。私どもが労働運動で展開しようとしていることについて共感を覚えていただいたことに心から私自身も喜びを覚えて、今日ごあいさつをする、という機会をいただきました。

プロ野球のストへの新鮮なインパクト

今、一番の関心事は「労働組合プロ野球がストライキ」ということだと思います。8月12日、選手会長の古田さんが関係者と私の所に訪ねてきて、私と古田会長のツーショットがテレビ、スポーツ紙まで1面トップで飾っていただきました。あのツーショットが

れから発展をしていくためには、とことん裸になって、経営側と話をし、経営側の真摯な態度を求めろ」ということを言ったのですが、残念な結果になりました。

ここで言いたいのは、日本の社会で、労働組合という名前が国民に印象づけられて、ストライキという言葉が、こんなに新鮮に映ったのは、本当に何十年ぶりだろう、ということです。そういう中で「労働組合って一体、どういうことをやればいいのか」ということに、改めて私自身も新鮮なインパクトを与えられ、これからの労働運動のひとつ方向性も出していきたいと思っています。

きわめて危ない「平和」

その中で、2つだけ申し上げたいと思います。2つの安全保障が日本の中できわめて危ないということです。

ひとつは、平和です。これは、憲法9条、護憲だなんだということ言うつもりはありません。しかし憲法9条があったことによって、日本が世界の戦争に、1945年の第2次世界大戦がおわって以降、一度も兵を海を渡らせて戦争に参加させないで済んできたんです。

朝鮮戦争のときに、アメリカは日本に「警察予備隊を軍隊として出せ」と要請してきた。当時は自民党が政権だったけれども「戦争放棄、戦力不保持の日本は戦争に参加できない」と断った。もうひとつの大きな戦争がベトナムであり、そのときには、基地を置いてあるフィリピン、韓国、日本に軍隊を出せと、アメリカは要請してきました。フィリピン、韓国は出した。これも自民党の政権だったけれども「憲法9条を侵すわけにはいかないし、そのことを無視して、戦争のために軍隊を海外に出すのは、日本の国民が許

さない」と言って、断った。

にもかかわらず、今度の小泉さんは一体どういうことよ、と。これからの日本が、道を危うくする、という大きな分岐点にきている。このことに対して、働く側が平和を希求する。これは協同組合も同じですし、労働組合も同じ。いかに、これを抑止し、日本が平和で居続け、その中で国際貢献にどう寄与していくのか、ということを考えなければいけない、一番大きな国の進路を決める時期にきたということです。

参加してつくりあげる生活安全保障

二つめは生活の安全保障に関わる部分です。年金を中心とした社会保障制度、これがつくりあげられるか、あげられないかということなんですね。

私は今日のこのシンポジウムでご挨拶する前に、ヘレン・シーモアさんとユルゲン・シュベットマンさんの書かれたものを少しだけ読ませていただきました。その中で、シュベットマンさんは「仕事、ディーセントワーク、これを作り出すことができるのは、協同組合だ」とおっしゃっています。そのうえで、組合員が意志決定の過程に参加し、労働の主人公になる 利潤や株主の価値を唯一の原則にせず、そうでない部門、そうでない地域に、就労をつくりだすこと 国家が提供しない、できない公共サービスやコミュニティサービスを提供する。このことが大変大きな役割だ、と述べられています。ヘレンシーモアさんは、イギリスが97年以降、政府の優先課題に、協同組合の運動が噛み合って、企業をどうやって起こしていくのか、そして衰退するコミュニティをどう再生するのか、社会的に排除された人々を、仕事へ復帰をさせていく、公共サービス

を現代化していく、この改革が必要で、このことを協同組合に求めたい。それが協同組合の仕事だ、ということをおっしゃった。

わたしは、まったく同感です。今、社会保障の問題を申し上げましたが、労働運動はどちらかという、反対勢力なんですね。政府や行政、経営に対して「お前らのやっていることはけしからん。国民のためにならない。だからこういうことをやれ」と要求を突きつけます。今までの戦後の運動はほとんどそう。私自身も約30年以上、このことをやってきました。しかし今の実状を考えたとき、どんなに反対の声をあげても結果的に選挙で圧倒的絶対過半数を自公の政権与党に与えてしまった「つけ」が、国民にきている。平和の問題しかり、社会保障の問題しかり。

しかし、その結果できあがった制度に対して「政府は国民の声をきかない、けしからん」「与党は横暴だ、経営者は無理解だ」と言っている中で、どのくらいの人が必要な悲劇を被るのか、ということ考えたときに、先ほどお二人が提起をした、「参加をして、その政策を本当につくりあげる」という役割をなぜ労働組合は今まで負おうとしなかったのか。私はそういう思いで、今回、年金制度を中心とする社会保障制度を「国家100年の計」と言うなら、国民の声をそのなかに反映させ、そのことが国民生活の最大の根幹になる社会保障制度をつくりあげることが、労働組合の役割だ。その責任を持つ、と総理に呼びかけて、社会保障のあり方に関する懇談会をスタートさせました。

私どもは社会保障ビジョンを出し、そのうえで年金制度の抜本改革案を政府や政党と違う感覚でつくろうということで、提起をぶつけさせてもらいました。つくりあげ中にはいっていき、というのは大変です。

反対している方がよっぽど楽です。だけどそのことを今やり遂げることが、日本にとって、労働組合の運動にとって必要だ、という思いでやっています。

NPO、NGO と連携する

今私たちは、NPO、NGOの方と労働組合の連携を強めようと、二つの組織をつくりました。ひとつは、約10年前にNPO事業サポートセンターを立ち上げました。小山内美江子さん、堀田力さん、連合事務局長の3人が代表世話人で、NPO事業をサポートし、日本のなかに本当にNPOを根付かせよう、それには労働組合がもっているノウハウを全部投入しよう、という思いでつくりました。

もうひとつは、NGOと労働組合の共同フォーラムです。国際的ディーセント・ワークの問題、貧困撲滅の問題、こういった問題に対し、労働組合が世界戦略をたてながら、NGOの方々と共に共同戦線をはっていく役割、これを負いたいと思っています。

労働組合は今まで、なぜか、フルタイムで正規雇用の社員でユニオンショップの人たちを対象に運動をやっていたら良かった時代があった。しかし連合700万、圧倒的多数の働く人を傘下におき、そのなかで、もっとも、労働組合すらないなかで、きわめて極端な労働条件におかれている人たちに対して、私どもがやっていくこと。これは今までの「堀のなかの懲りない面々」ではダメだ、という思いのなかで、運動を変えたい、ということなんです。

連合をローマ字のアルファベットで書くと、RENGO。再生NGOなんです。私はこの思いを労働組合に託して、新しい日本を開拓するための運動を皆さんと一緒にやらせていただきたいと思います。